

RACE	2023 AUTOBACS SUPER GT Round8 MOTEGI GT 300km RACE GRAND FINAL
DATE	予選：2023年11月4日 決勝：2023年11月5日
CIRCUIT	モビリティリゾートもてぎ（栃木県）
WEATHER	予選：晴れ/ドライ 決勝：晴れ・雨/ドライ・ウェット
RESULT	公式練習：8位 予選：6位 決勝：10位

ついに2023年シーズン最後のレースを迎えたSUPER GT。決戦の舞台は、栃木・モビリティリゾートもてぎとなる。ホンダホームサーキットで臨む最終戦において、チームクニミツのNo.100 STANLEY NSX-GTは予選6位からスタートを切り、10位でチェッカーを受けた。



◎ 予選日：

前日の搬入日から秋晴れに恵まれたもてぎ。日中は穏やかな秋の日差しに恵まれたが、朝早くには霧が立ち込め、サポートレースがディレイする状況だった。幸いにして、午前9時25分からの公式練習には何ら影響もなく、セッションがスタートしている。

しかしながら、朝の冷え込みが残り、気温は15度、路面温度は18度という低い状態。また路面コンディションも良いとは言えず。しばらくピットで待機し、まず牧野任祐選手がコースインした。路面やクルマの持ち込みセット、さらにはタイヤのフィーリングなど、さまざまな確認作業を進める一方、ピットにクルマを戻して微調整を重ねる牧野選手。開始から30分を過ぎて、前回からチームドライバーとして出場する木村偉織選手へとスイッチした。木村選手も自身のステイント中にピットインを繰り返すなど最終決戦に向けて調整を繰り返したが、GT500専有走行では、牧野選手が再びコースイン。スタート時と比べ、気温は6度、路面温度は12度も上昇するコンディションとなったが、アタックシミュレーションで1分37秒399を刻み、8番手につけた。

午後からも好天が続き、小春日和の中、午後2時20分、予選セッションが始まる。GT500クラスQ1は午後2時53分にスタート。気温23度、路面温度28度のなか、アタックを担当する牧野選手がタイヤパフォーマンスを引き出して、チェッカーラップの周に1分36秒225をマーク。No.100 STANLEY NSX-GTはホンダ勢トップとなる3番手通過を果たし、Q2に向けての弾みをつけた。

続くQ2は午後3時31分から。日はすっかりと傾いているが、気温22度、路面温度27度とほぼQ1と同じコンディション。前回に続き、木村選手が担当する。牧野選手のパフォーマンスに力をもらった木村選手は、タイヤをしっかりと発動させてアタック開始。1分36秒721を刻んだ。だがライバル勢の躍進もあり、No.100 STANLEY NSX-GTは6番手から決勝レースを迎えることになった。



なお、もてぎは、昨年の最終戦で、牧野、木村（GT300）両選手ともポールポジションから優勝した「験の良い」サーキット。牧野選手は「公式練習の走り出しでは、うまくいっていない部分もあったが、予選に向けて調整することができた。アタックもうまくいって良かった」と手応えを感じていた。また、チーム監督から「予選では3列目までのグリッドにつきたい」のリクエストに応える走りを見せた木村選手。「牧野選手のアジャストのおかげで、いいクルマになった。ドライブしやすく、いいアタックができた」と安堵の表情だったが、「自身としてはまだトップとはまだ差があるので、もっと研究して決勝に臨みたい」と躍進を誓った。



◎ 決勝日：

前日ほどの冷え込みはなく、穏やかな朝を迎えたもてぎ。今シーズンをもって、NSX-GTでの参戦が終了することもあり、サーキットではそのセレモニーが行なわれた。コース上では、NSXとして初タイトルを獲得した車両、そして来シーズンから投入されるCIVIC TYPE R-GTがデモンストレーションランを実施。さらに、決勝を走るHonda勢5チームの車両もコースに勢ぞろいし、ドライバーとともに記念撮影に収まった。



チームとしては、2018年に山本尚貴&ジェイソン・バトン両選手が、そして2020年には山本&牧野両選手がドライブし、シリーズタイトルを掴んだ車両であるNSX。苦楽を共にしてきた車両でのラストランとして、シーズンベストの結果を目指して午後1時のスタートを迎えた



No.100 STANLEY NSX-GTのスタートドライバーは木村選手。地元栃木県警の白バイとパトロールカーが先導してのパレードラップからフォーメーションラップに入り、300km・63周のシーズンラストレースが幕を開ける。気温23度、路面温度28度と前日の予選とほぼ同じコンディションでスタートしたが、瞬く間に日差しがなくなり、サーキットには灰色の雲が広がる。また、冷たい風とともにポツポツと雨が落ち始め、のちにレースは不安定な天候の影響を受けることになった。



木村選手は、まず、落ち着いた走りでポジションキープの6番手でオープニングラップを終了。5周目あたりからコースの一部で降雨が始まったが、そのなかでも集中力を切らさず、8周目には5番手にポジションアップ。だが、10周目には背後の1号車GT-Rの逆転を許してしまう。また、11周目には14号車Supraとのサイド・バイ・サイドを展開するなか、S字で接触。ポジションを落とすことはなかったが、午後1時34分には、14号車への衝突が原因で、ドライブスルーペナルティが課された。チームは16周終わりでピットインを指示。改めて、12位から追い上げを目指すことになった。その後、レース序盤の慌ただしさを助長した雨も止み、コース上には日差しが戻ってくる。木村選手は、ひとつでもポジションを取り返そうと、力走。20周を過ぎ、ライバルがルーティンのピットインを始める中でも奮闘を続けた。そして、27周終わりにルーティンのピットインを実施。牧野選手へとステアリングを委ねた。

レースはその後牧野選手が順調に周回を重ねる一方で、不安定な天候が続く。また、周回数が35周を迎える頃、再び雨が降り始め、場所によっては本降りとなったため、牧野選手は、濡れたコースをドライタイヤで走行することに注力しつつ、少しのチャンスも逃すまいと、ポジションアップの好機を伺いながら周回を重ねていった。そのなかで、44周目には、GT500とGT300の車両の接触事故を受けてフルコースイエロー（FCY）が導入され、前方車両との差が縮まるチャンスになるかと思われたが、短時間での解除となり、No.100 STANLEY NSX-GTは12位での周回が続いた。

その後、53周目を過ぎたころにも激しく雨がスポット的に降るなど、依然としてコンディションが読めない状況が続き、さらに、トップを走行する3号車Zがコースアウト、58周目にFCYが導入されるなど、レースはチェッカー直前まで落ち着きのない展開になったが、牧野選手は荒れる状況下でもクレバーな走り続け、また終盤は38号車Supraとの攻防戦をも制し、59周目には10位へと浮上。このポジションを守り切ってチェッカーを受け、タフなシーズン最後の戦いを終えた。



今シーズンは、第2戦富士で2位表彰台を獲得、中盤戦に向けていい流れを構築したものの、チャンピオン奪還を目指す中で、厳しい展開が続いた。さらに、第6戦SUGOではクラッシュに見舞われただけでなく山本選手を欠く事態となり、苦しい状況での戦いを強いられた。その中でも牧野選手がチームを引っ張り、また2戦で代役を務めた木村選手も山本選手の思いを胸に奮闘。チーム一丸となってシーズンを駆け抜けた。

NSX-GTラストランでの優勝は果たせなかったが、来シーズンから新たに投入されるCIVIC TYPE R-GTを武器に、より速く、より強いレースを見せようと、すでにチームクニミツは新たなスタートを切っている。2024年シーズンをより充実した戦いにすべく、新たな目標を掲げて邁進したい。

COMMENT FROM TEAM

◎ 小島一浩監督



決勝は10位で終わったのですが、今回の決勝レースでは、新たな試みとしてスタートドライバーを木村選手に代えて、短いステントでアンダーカットを狙う作戦でレースに臨みました。残念ながら、そのなかで接触があって順位を落とすことになり、しかもドライブスルーペナルティを受けて下位に沈みました。結果、その後の作戦が採りづらくなったのですが、後半の牧野選手がいいラップタイムを刻んでくれました。序盤のアクシデントがなければ、

もう少しいいレースができたのではないかと思いますと残念です。

今シーズンのレースはこのもてぎで終わりましたが、その翌日からは2024年に向けて進んでいきます。なお、12月3日にモビリティリゾートもてぎで行なわれる「Honda Racing THANKS DAY 2023」に、このSTANLEY NSX-GTは出走しないのですが、2018年のRAYBRIG NSX-GTで出ますので、そちらも楽しみにしていただけたいと思います。

今シーズンを振り返ると、いろいろなことがあり、その中での対応を迫られたのですが、なんとか1年を終えることができました。来年も全力で頑張っていきますので、応援をよろしくお願いします。一年間、ありがとうございました。

◎ 牧野任祐選手



前半の接触でペナルティがあったので、表彰台争いからは脱落することになりました。後半、また雨が降ってきたのでセーフティカーが入れば、と思っていましたが、そういう展開にはならず、逆転のチャンスは巡ってきませんでした。

今回のもてぎがNSXラストランになるので、有終の美を飾るべく、僕自身としては全開で走りました。来シーズンからはCIVICでの戦いに

なりますが、また歴史に名を刻むべく頑張っていきたいと思います。シーズン中はたくさんの応援をいただき、ありがとうございました！

COMMENT FROM TEAM

◎木村偉織選手



スタートを担当し、一時は5番手までポジションを上げることができたのですが、自分のミスでレースを台無しにしてしまいました。チームの皆さん、応援してくださったファンの皆さんには、大変申し訳なく思っています。

チームで参戦した2大会では、短い期間ながら非常に充実したレースができてよかったです。最後にこのような形で終わって残念ですが、またGT500クラスで参戦するチャンスがもらえ

るよう、初心に戻ってがんばっていきたいと思います。応援ありがとうございました。

2023年シーズン、ご協賛いただきまして、ありがとうございました。

今シーズンは、NSX-GTラストランということもあり、気持ちを新たに臨んだシーズンでした。

残念ながらシリーズチャンピオンを獲得することはできませんでしたが、2024年シーズン「CIVIC TYPE R-GT」で更にどこよりも

力強い走りがお見せできるよう邁進して参ります。

あらためまして、皆様からのご協賛、ご協力に心より感謝とお礼を申し上げます。

今後とも、末永くよろしく願い申し上げます。



株式会社チームクニミツ